

予防接種が変わります

院長

7月29日に厚労省から予防接種に関する通知が出されました。内容としては進歩があるものの、問題点もあるので紹介します。

今回の予防接種法の改正は、麻しん対策を強化することと風しんによる先天性風疹症候群の発生を予防することが大きな柱となっています。麻しんの予防接種は従来は12～90ヶ月での1回接種でした。米国などでは、2回接種が取り入れられています。1回接種では、免疫の持続が充分ではなくワクチン接種者の成人になっての麻しんの罹患が問題となっていました。今回の改正では接種時期が、次のように変わりました。

第1期 生後12月から生後24月に至るまでの間にあるもの

第2期 5歳以上7才未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にあるもの

要約すると、2回接種になったこと。1回目は12～24ヶ月。2回目は小学校入学前の4月1日から翌年の3月31日までということになります。

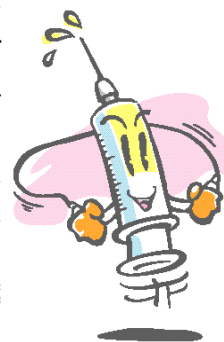
もうひとつの実施規則の変更により、麻しん及び風しんの定期接種には、乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンを用いることになりました。

この新しい予防接種の施行は、平成18年4月1日からとなっています。ほかに、日本脳炎に係る定期接種のうち有効性が低いと評価される第3期の予防接種が廃止されました。

今回の改正は一見良いことのようにも感じますが、いくつか問題点もあるので考えてみましょう。今回の2回接種は、平成18年4月1日以降に第1期を接種するお子さんだけが対象になります。つまり、平成18年4月1日以前に単独のワクチンを接種したお子さんは、第2期の対象者とはならないのです。例えば今月1才になるお子

さんがいるとします。2回接種を受けるためには、麻しんの予防接種をすぐに行なわず、1才8ヶ月(平成18年4月1日以降)間で待つということになります。しかし、麻しんはかかると重症な病気なので、来年まで待つとは言えません。従来から、当院のHP、院内報や小児科関連の団体でも「1歳のお誕生日には麻しんのワクチンを」を展開しています。この流れからも、接種を先に延ばしましょうとは簡単には言えません。今回の改正が、ワクチンの接種率の低下の原因になることを心配しています。少しおかしいことですが、第2期の対象となるお子さんで麻しんと風しんのワクチンを接種していない場合は、第2期として接種できることになっています。もう一つの問題は、予防接種の期間が短くなってしまったということです。2回接種により期間が広がったようにも思えますが、実は逆なのです。従来は12～90ヶ月(7才半)までが可能でした。今回は2才を過ぎてしまった場合、5才までは受けることが出来ないことになってしまいました。もし接種を希望する場合は、任意接種となり費用は自己負担しなければなりません。その他に、麻しんを心配して1才前に予防接種することがありました。この扱いがどうなるかということも、まだはっきりしていません。

予防接種のメリットを受けられる人と受けられない人がいるのは大きな問題です。我々小児科医も、このような矛盾に関しては、強く改正を求めていきたいと思っています。今回の改正に対しては、いろいろ情報を集めて当院としての対応を示したいと思います。この機会に皆さんも予防接



夏期休暇のお知らせ

8月15日(月)～8月20日(土)

今回は8月15～17日のお盆休みの後、大阪で開催される日本外来小児科学会にスタッフ一同参加してきます。今年はスタッフが発表します。皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご了承お願い致します。

8月のお知らせ

・栄養育児相談

毎週水曜日 13:30～ 栄養士担当

・在宅休日当番

8月28日(日)

9:00～16:00



「小児科医がやさしく教える赤ちゃん・子どもの病気」の重版(再版)へのご協力をお願い

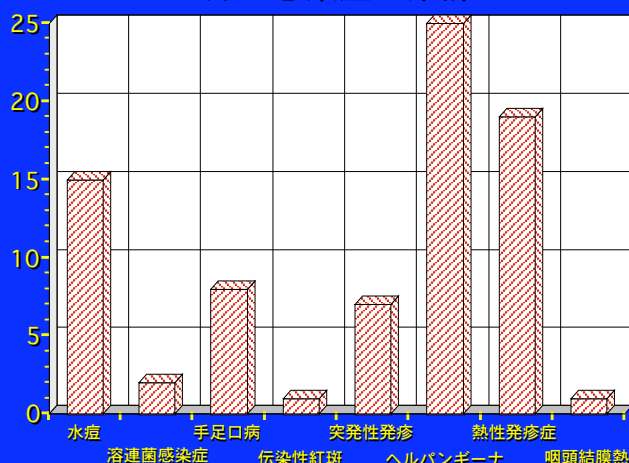
院長の著書、お知らせしている通り完売となりました。再版お問い合わせがあり、出版社とも交渉しましたが再版(重版)の予定はありません。しかし、復刊.comに再版の希望が掲載されました。ぜひ、復刊.com(<http://www.fukkan.com/>)にアクセスして、復刊のリクエストをお願いします。

先月は21通のメールを頂きました。今回は、お叱りのメールを頂いたので、御紹介致します。読者の広場に掲載されるメールは、良いものだけを掲載するつもりはありません。2000年10月にかかりつけ患者さん専用のアドレスを設定してしまい、先月末までに1369通になりました。本当に多くの方々からメールを頂きました。幸い今までは、要望のメールはありましたが、お叱りのメールを頂いたことはありませんでした。反省の意味を込めて掲載します。「先日、子供が熱を出し、かわむらへ行きました。いつもいただける薬が2〜3にち分なので、もうすこしもらえるか聞いたところ、「いつ容体が変わるかかわからないからそんなには出せない」とのこと、その後「食欲がない」ことを相談すると薬を多めにだせと言っておきながら、食欲ないと心配する親の気持ちがわからない」とびしゃり。は？薬を多めにといったのは病院が休みの日に薬がなくなりそうだったから。めんどくさくて言ってる訳じゃない。なのにそんな言い方ってあります？こどもが心配だから来てるんです。一緒にいった夫にも「おまえがそんなよけいな事言うから、川村先生は気分悪くしたんだ」と責められました。その前も、処方されたステロイド剤が心配で「長期に使って大丈夫か」と聞くと、「だったら、お母さん、使うのをやめて」と一言。こっちは知識がないから「心配しなくて大丈夫」の一言が聞きたかったのに・・・わたしはかわむらにいくたび、とても悲しい気持ちになります。もちろんお詫びのメールは送りましたが、返事は頂けませんでした。いろいろ書くといい訳がましくなるので、掲載するだけにとどめます。御意見等があれば、お願いします。



続いては、泉区の千田さんからです。「今日もお世話になりました。千田佳季、奏大の母です。面と向かっては中々言う勇気が出ず、けれど、どうしても言いたかったことがあったので、初めてでは有りますが、メールを差し上げることに致しました。今日は次男の事で受診させて頂いたのですが、待合室にいる時に婦長さんが「おかあさん、どこか具合でも悪い？」と声を掛けてくださいました。実は昨夜、いつも寝つきの良い次男の眠りが浅く、何度も夜中に起こされ、そんな時に限って長男もやたら早起きで、拳句の果てには利き手首が痛くてかわむら先生のところが終わったら、整形外科に行こうと思っていたところでした。いつもくたびれた恰好でいる私ですが(笑)、夫ですら気付いてくれなかった様子に気付いてくれて、声を掛けて下さったこと、私にとってはとても有り難かったです。子どもだけでなく、親の様子にまで気を配ってくださるスタッフの方々、いつも真摯に子どもと向き合ってくださいさるかわむら先生。たとえ子どもが病気になっても、かわむらこどもクリニックという信頼できる病院があるということは、なんて心強いんだろうと改めて思いました。どうにも咳が出やすいうちの子供たちですので、またお世話になることは間違いないのですが、どうぞこれからもよろしくお願ひ致します。」。メールの良さは、こういうことですね。面と向かって言うのは難しいけれど、メールなら言いやすい。お母さんの具合は、子どもにも影響します。子どもの健康にとって、親の健康はとても大切です。お誉めを頂きありがとうございます。本当に有り難いことです。今回は反動のせいも、もうひとつ紹介します。泉区の菅原さんからのものです。「川村先生。7月18日から5日間、高い熱が続き診察していただきました。菅原結羽の母です。18日は休日診療に駆け込んだ所、川村先生が当番で感激しました。安心して受診させて頂きました。普段、検診や予防注射の時は先生をお願いしているのですが、風邪のときなど(時間をかけて通うことができず)近くの病院で診てもらっています。でも今回は、休日診療で始めに診ていただいた事もあり、その後もどうしても先生に診ていただきたく、病状が落ち着くまで通わせていただきました。他の病院とどうしても比べてしまうのですが、診察も説明も川村先生のように丁寧ではなく、質問しても(忙しいから?)面倒くさそうに話されるので(そう見えてしまいます)、聞きたいことも十分に聞けず納得がいかないまま帰ってくることもしばしばです。先生のように、体をこちらに向けてわかりやすく、丁寧にお話してくれる先生は他にいません。(そんなにたくさん先生に診ていただいた訳ではありませんが)いつも、私のほうが励まされ、元気をもらって帰っているような気がします。看護婦さん達にも気遣っていただき、優しく声をかけてもらい、とても安心できました。おかげさまで、結羽は先日元気に1歳の誕生日を迎えることができました。次は早速、1歳検診と麻疹の注射をお願いします。先生と看護婦さんの顔を見ただけで泣き出してしまいう結羽ですが、これからもよろしくお願ひします。」。今回もまた、本当に心あたたまるメールを頂きました。いつでもでなくてもかまいません。困った時にはいつでもどうぞ。お母さん達の心のビタミン剤を目指します。ありがとうございました。

7月の感染症の集計



中旬までは、高熱の出るカゼが多く見られました。その中には、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱も多く含まれていました。小学校や幼稚園が休みになると、とたんに流行は終息してしまいます。月末には、かなり患者さんも少なくなりました。水痘と、熱性発疹症は相変わらず多く見られています。

編集後記

年に一度の待ちに待った夏休みです。学会参加ではスタッフが発表するのですが、なかなか良い刺激になってます。お母さん達から頂くメールと同じで、発表も仕事に対するモチベーションをあげるのに大きな力になります。慰安旅行もかねてくるので、後半に向けてリフレッシュしてきます。



「小児科がやさしく教える 赤ちゃん・子どもの病気」(PHP 研究所)

お陰様でクリニックの分も完売致しました。ありがとうございました。